

令和8年度 アオコ情報（河川 No. 12）

8月18日に実施した調査の結果についてお知らせします。

- フィコシアニン濃度^{※1}の最大値は、新川、備前川及び土浦沖合でアオコレベル2相当^{※2}でした。

新川、備前川のアオコレベル

<新川>

- ・ 新港橋及び新川沖合でアオコレベル2相当（フィコシアニン濃度：392～399 $\mu\text{g/L}$ ）、神天橋でアオコレベル0相当（フィコシアニン濃度：12 $\mu\text{g/L}$ ）でした。

<備前川>

- ・ 岩田橋、竹中橋及び備前川沖合でアオコレベル2相当（フィコシアニン濃度：187～510 $\mu\text{g/L}$ ）でした。

<土浦沖合>

- ・ 土浦沖合①及び土浦沖合②でアオコレベル2相当（フィコシアニン濃度：157～295 $\mu\text{g/L}$ ）でした。

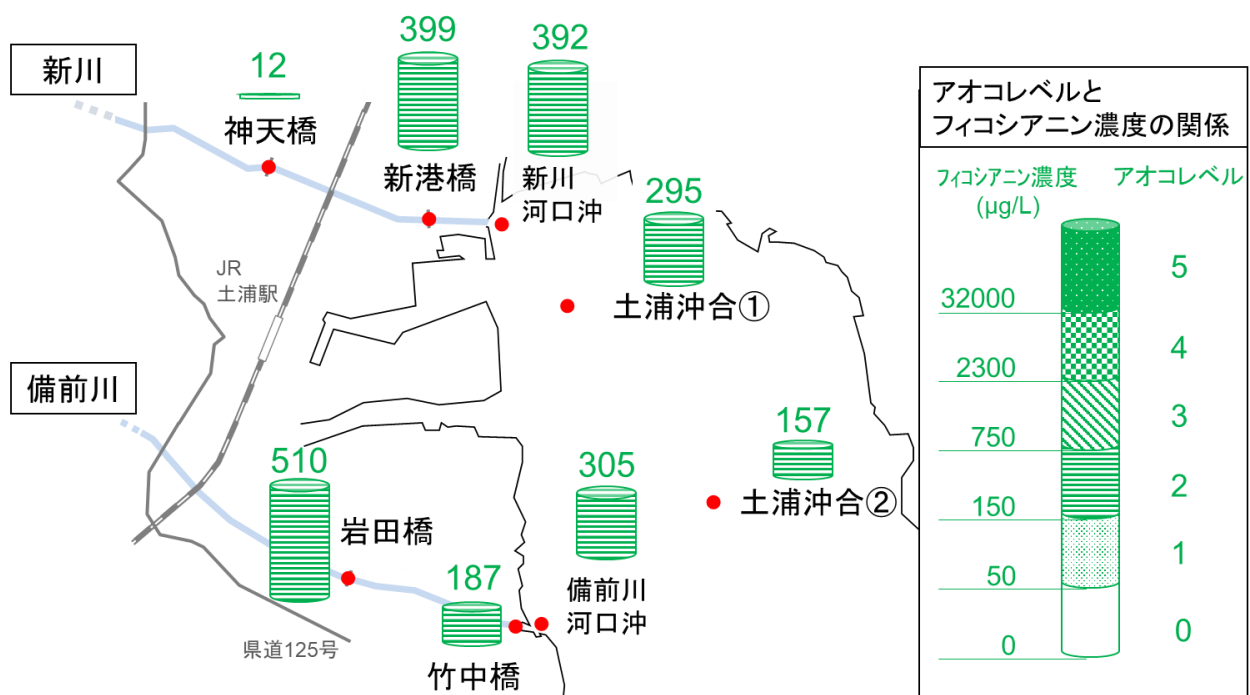


図1 フィコシアニン濃度の分布

※1 フィコシアニン

アオコの原因となる植物プランクトン（藍藻類）に含まれている色素です。フィコシアニン濃度はアオコの現存量と一定の相関があるため、アオコ現存量の目安になると考えられています。

※2 アオコレベル

アオコの発生状況を視覚的に把握するための指標です（参考：国土交通省霞ヶ浦河川事務所 HP: <http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00313.html>）。フィコシアニン濃度は、アオコレベル1で50 $\mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル2で150 $\mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル3で750 $\mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル4で2300 $\mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル5で32000 $\mu\text{g/L}$ 程度です（小日向ら、2012）。各レベルの写真は、別紙に掲載しています。

● 調査結果の詳細

表 調査結果

	新 川			備前川			土浦沖合	
	神天橋	新港橋	河口沖	岩田橋	竹中橋	河口沖	①	②
採水時刻	8月18日	8月18日	8月18日	8月18日	8月18日	8月18日	8月18日	8月18日
	10:21	10:06	9:47	10:45	11:22	9:20	9:40	9:31
水温 (°C)	27.3	28.7	29.8	29.5	29.8	29.3	29.0	29.3
pH	8.4	8.6	8.9	8.9	8.9	8.5	8.8	8.9
EC (mS/m)	26.4	40.7	24.6	22.1	21.5	25.5	24.2	27.4
透視度 (cm)	32	31	17	12	17	13	15	20
フィコシアニン (μg/L)	12	399	392	510	187	305	295	157
クロロフィル a (μg/L)	43	298	254	416	188	287	181	118

● (参考) アオコレベル (https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000042117.pdf)

